

13人の演技と笑顔

県警カラーガード隊新人5人



交通安全運動や地域のイベントで活躍する県警のカラーガード隊が本年度の新メンバー5人を迎え、23日の春日部藤まつりでお披露目する。色彩豊かな衣装を身にまとい、県警音楽隊の演奏に合わせ、フラッグやバトンを用いて華麗な演技を見せる18〜27歳の女性13人。県警の広報活動を推進する隊員らは「そろった演技や笑顔を県民の皆さんに届けたい」と1年間のスタートに向けて意気込んでいる。

(勝俣直)

カラーガードとは、鼓笛隊などの道具を使って視覚的なマーチングバンドの中で旗表現を行う部門。県警が19

74年に発足させた当時は女性警察官による兼務隊だったため、活動回数や練習時間も大幅に限られていたが、2003年から専務隊となり、非常勤職員13人で活動する。県警のポリスコサートやイベントのほか、学校や市町村の行事などに要請を受けて派遣される。昨年は各地で134回の演技に臨み、約18万人が見学した。隊員は1年ごとに更新し、欠員が出た場合は一般から希望者を募って採用する。経験は問わない。

本年度は新たに5人の個人的なメンバーを加えた。介護福祉士から転身した熊谷市出身の小沢舞子さんは最年長の27歳。大東文化大学時代にカラーガードを経験し「若いうちにとやりたいことに挑戦したい」と応募した。千葉県野田市出身で最年少18歳の上田歩美さんは岩槻高校吹奏楽部で3年間、カラーガードに打ち込んだ。「高校のときにお客さんから『良かったよ』と言ってもらい、こんな私の演技でも何かが届くことがうれしかった」と県警の隊の存在を知って続けることを決めた。

交通安全など県警の広報活動に貢献するカラーガード隊の13人。20日(左)大田市北区の県警警察学校

きょう春日部藤まつりでデビュー

普段は県警警察学校の体育館などを使い、1日5時間ほど練習する。13日に行われた同校の入校式では昨年度から残るメンバーだけで演技を披露した。新人を含めた本年度のチームは23日の春日部藤まつりでデビュー。パレードや広場で演技を行い、集まった人々を楽しませる。その後も5月にかけてコンサートなどのイベントがめぐる予定だ。

実家が由緒ある藤市の和楽備前社という赤尾実奈奈子さん(26)はカラーガード未経験者。「4月に入ってあっという間で、気持ちはいっぱいいっぱいだったが、全てのエネルギーを注ぎ、地域の皆さまに親しまれる存在になりたい」と力を込めた。

草加市出身で入隊5年目、カラーガード歴9年のリーダー・鶴飼春菜さん(26)は「このメンバーでやるのは1年限り。13人しかないなので、チームワークを大切に楽しく、厳しくやっていきたい」と抱負を語った。

◇ 2017年度の県警カラーガード隊員は以下の通り(敬称略)。

- 鶴飼春菜(26)▽小野千夏(20)▽田村美夏(20)▽高橋結奈(20)▽岩崎由希菜(24)▽大津凧子(19)▽鶴海良(20)▽小野愛美(26)▽本年度加入5人▽小沢舞子(27)▽赤尾実奈子(26)▽菅原恵里(26)▽納えみり(28)▽上田歩美(18)